

J-1

## 海上公園における経年変化による利用者の水辺環境評価に関する研究 都市住民の親水行動特性の変容に関する研究

### Study on the Environment of the user in the Marine Park Study on Characteristics of Urban Water-Familiarization

○鈴木直<sup>1</sup>, 畔柳昭雄<sup>2</sup>, 坪井塑太郎<sup>2</sup>

\*Nao Suzuki<sup>1</sup>, Akio Kuroyanagi<sup>2</sup>, Sotarou Tsuboi<sup>2</sup>

Abstract: : In recent years, the urbanization progress in, risen is the importance of the waterside parks and marine parks. So, obtained by recognizing the "Waterfront" as a place for developing the coastal area of Tokyo Odaiba Seaside Park using Park, subject to satisfaction and behavior survey and feel there have been investigate the Seaside Park arrangement in urban area of reveal and satisfaction for facilities such as nature and. As a result, satisfaction depends on natural factors of the Park and sea presence or existence of a non-visual artifacts,. Also, caught in the enjoyment of Seaside Park in full satisfaction, rather than only the sufficiency of natural factors affects the physical factors surrounding it.

#### 1. はじめに

1971 年以降, 都内に整備されてきた海上公園の数は 42ヶ所に上る. その中でお台場海浜公園は, 東京を代表する観光スポットとして人々に認識されるようになり, 多くの観光客や利用客を集める場ともなっている. そのため, 行政側も積極的に施設整備等を進めてきているが, 管理面では 2003 年の地方自治法の改正により新制度を導入することで, 官から民への移行を意図し, 公園管理に民間企業のノウハウを生かすようになった. 一方, 著者ら<sup>1)</sup>はお台場海浜公園がオープンして間もない 1992 年に海上公園の利用者に対する実態調査を行い, その後, 2000 年には継続調査としての経年変化による実態調査を行なった. その結果は, 学会等に報告してきた.

今回, 過去 2 度の調査結果を踏まえ, 公園整備や管理状況の変化等を考慮して, 第 1 回調査から 20 年目の公園利用に見られる経年変化を捉えることとした.

#### 2. 調査概要

調査対象地は, これまでと同様の範囲内のお台場海浜公園(以下お台場とする)とする.(Table 1 参照)

調査概要は Table 1 に示す. 調査は, 朝 9 時から夕方 5 時までとした.

#### 3. 水辺環境評価の変容

##### 3. 1 水辺空間の総合評価

訪れた水辺に対する総合的な評価を「総合満足度」(7 段階評価)と「再来訪希望度」(5 段階評価)について分析したものを Figure 2 に示す.

総合満足度は, 過去 2 回と比べ, 約 90%の利用者が満足側の回答を示している. また, 再来訪希望度につ

Table 1. Outline of the study

調査項目	調査概要
調査対象地	お台場海浜公園
調査対象者	調査対象公園の利用者 (18歳以上)
調査実施方法	アンケート票による面接調査法
標本抽出方法	無作為抽出(ランダムサンプリング)
サンプル数	合計500通
調査期間	2011年7月30日(土)~8月14日(日)

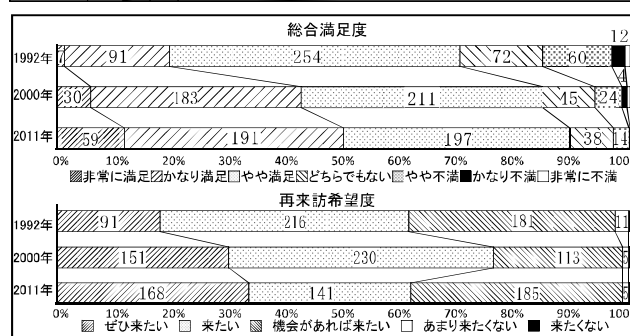
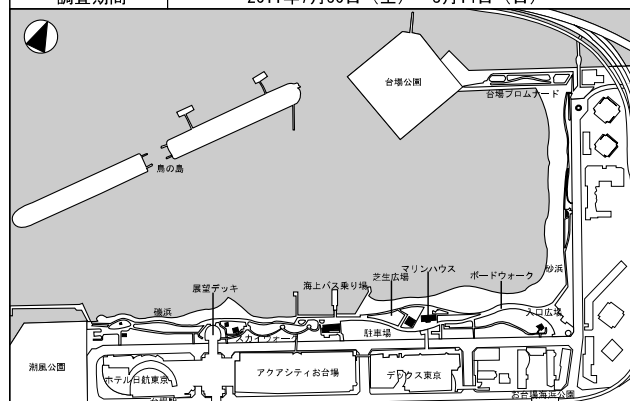


Figure 2. Overall satisfaction level and re-visit hope

いても増加傾向を示している. このことから公園に対する利用者の満足度は高くなり, 再来訪希望度も当初と比べ, 「ぜひ来たい」とする意識が 1.8 倍程になっており, 利用者からは好感を持って捉えられていることがわかる.

##### 3. 2 総体的評価に関する分析

18 項目に対する心理的反応を片側 5 段階の設定尺度

1 : 日大理工・院・海建 Graduate School, Nihon Univ. 2 : 日大理工・教員・海建 Prof, CST, Nihon Univ, Dr. Eng.

を用いて分析した結果を Figure 3 に示す。これを見ると、過去 2 回の調査結果と比べ、良好度（感受度）がさらに高くなる傾向（右寄り）を見せている。この中で各項目の評価の向上は前回までと同様に、「風景の美しさ」や「雰囲気の良い」等で評価が高く、台場地区では海浜公園そのものが地区に馴染み、溶け込み、地区の雰囲気を作り上げているものと考えられる。

### 3. 3 個別評価に関する分析

個別評価は、24 項目に対する満足・不満項目を選択する方式で回答得ており、ここでは不満率を横軸、満足率を縦軸に設定した図を Figure 4 に示す。これより、今回は、満足率の高い項目が「水辺の景色」「涼しさ」「賑わい」等、前回までと比べて増加していることが分かる。一方、「水のきれいさ」「水の色」「水の透明感」は満足率が若干高まっているが不満率も高まっている。次に、過去 2 回の結果と比較すると、1992 年や 2000 年では、満足率は 30% と 60% 程度であったが、今回は、90% となり、歳月を重ねるごとに満足度が上昇していることが分かる。

### 4. おわりに

本稿では、お台場海浜公園の経年変化による利用者の意識構造を捉えることで、社会的な意識の変化と公園内及び周辺の物理的な環境変化を捉えた。

この結果、海浜公園利用者の多くが公園に対して満足しており、再来訪を期待していることが分かる。また、公園が開園以来 36 年を経ることにより、樹木や緑地海浜環境などが成熟度を高めることで、公園利用者に対して視覚的に風景的なまとまり感や雰囲気の良さを与えていると思われ、それが各評価に繋がっているものと思われる。

また、満足度・不満度の傾向も全体的な傾向として満足度が 90 年代初めよりも 3 倍に増えていることは公

園整備の効果の表れと考えることができる。

今後は、水域の生態系に対する配慮が進むと、一層満足度は高まるものと思われる。

### 5. 参考文献

- [1] 畔柳昭雄, 佐々田道雄, 渡辺秀俊: 「都市臨海部における利用者の水辺環境に関する研究～都市住民の親水行動の変容に関する研究 その 1」, 日本建築学会計画系論文集, 第 557 号, 367-374, 2002.7
- [2] 佐々田道雄, 畔柳昭雄, 渡辺秀俊: 「都市臨海部における利用者の水辺環境に関する研究～都市住民の親水行動の変容に関する研究 その 2」, 日本建築学会計画系論文集, 第 568 号, 185-192, 2003.6

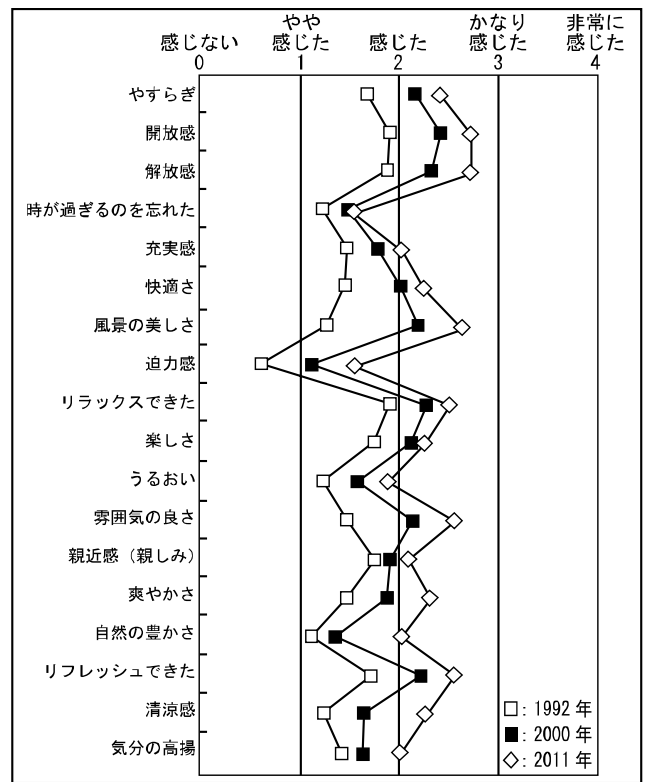


Figure 3. Overall assessment of the degree of sensitivity

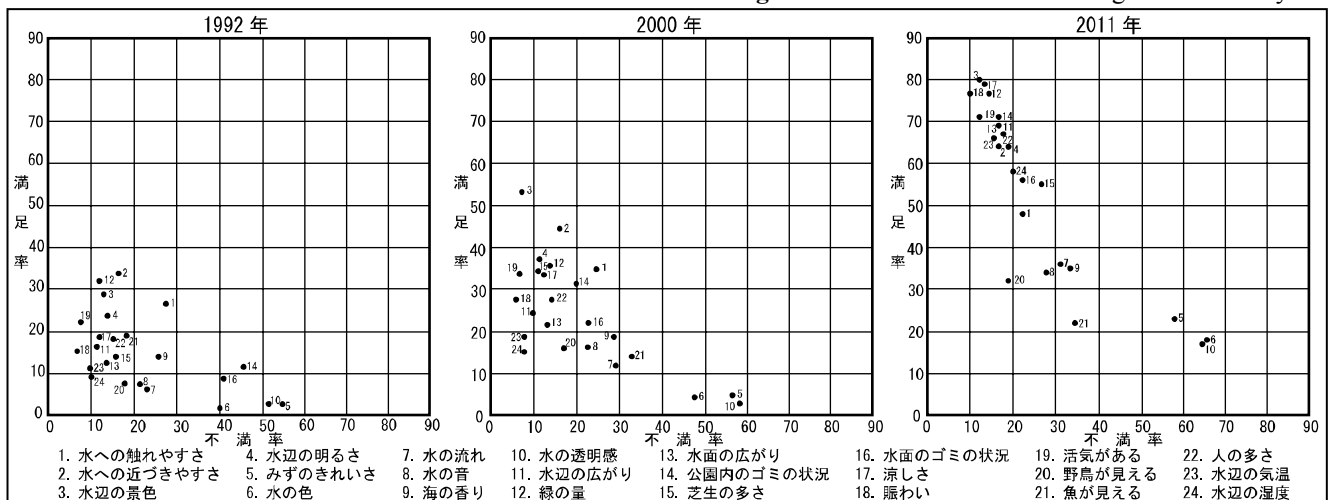


Figure 4. Relationship between degree of satisfaction and dissatisfaction